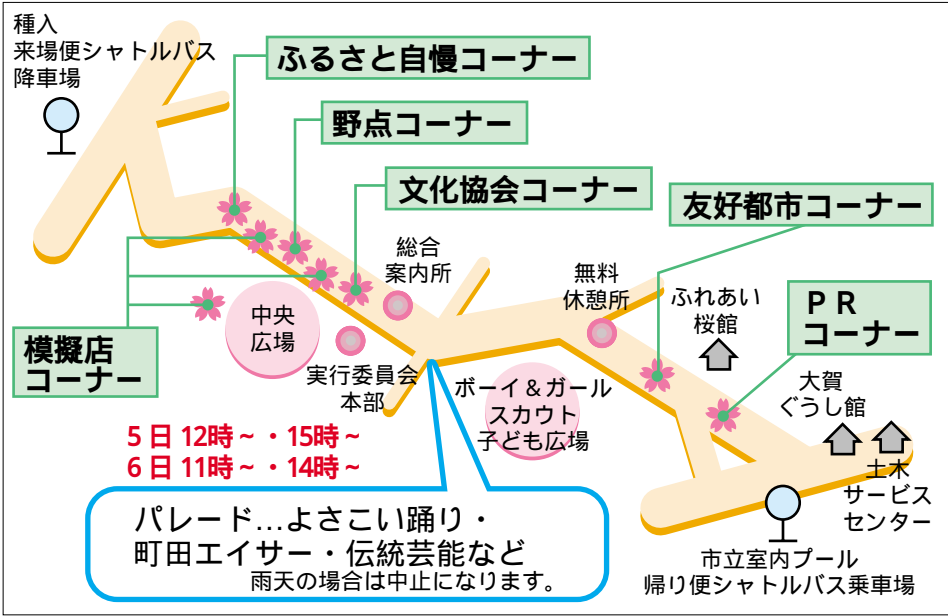


人口と世帯

人口 394,210人
 男 195,701人
 女 198,509人
 (前月より91人増)
 世帯 158,779世帯
 (前月より39世帯増)
 (15年3月1日現在)

発行・町田市 編集・企画部広報広聴課
 〒194-8520 東京都町田市の中町1-20-23
 市役所の代表電話042・722・3111
 発行日・毎月3回1の日(1日、11日、21日)
 ホームページ <http://www.city.machida.tokyo.jp>



2003年まちだ さくらまつり

4月5日(土) 午前10時～午後5時
 6日(日) 午前10時～午後4時

会場
尾根緑道



— 去年のさくらまつり

春うららら
尾根緑道の春をお楽しみ下さい
 問 2003 町田市民さくら祭り実行委員会事務局
 経済振興部商工観光課 724・2129

駐車場はありません。シャトルバスをご利用下さい。
 来場便...種入側会場入口(種入バス停)行き

- ルート1** 成瀬駅発 成瀬会館前発 町田バスセンター(日生ビル前)発 境川団地発
- ルート2** センター前(鶴川団地)発 鶴川駅(0番線)発 藤の台団地発 山崎団地センター発
- ルート3** 円林寺前発 相原駅発 片所発

帰り便...市立室内プールバス停発

- 町田バスセンター行き
 成瀬駅行き(町田バスセンター経由)
 センター前(鶴川団地)行き(藤の台団地経由)
 円林寺前行き

直行シャトルバス運行

5・6日両日とも大型貸し切りバス(シャトルバス)で会場入り口まで無料送迎します。各発車場所からは午前9時20分～午後5時まで約20～40分毎の運行を予定しています。
 有料バス路線も従来通り運行していますのでご利用下さい。



加島保路助役

町田市助役に 加島保路氏が 就任

3月3日に開かれた市議会本会議で同意を得て、助役に加島保路氏が就任しました。

氏が4月1日付で就任しました。任期は4年です。
加島保路助役
 1951年(昭和26年)生まれ、52歳。昭和45年東京都衛生局に入都。フロンティア対策本部事業部副参事(フロンティア協会派遣(医療衛生室長))、主税局総務部職員課長などを歴任。平成12年から同総務課長(統括課長)。

高山助役が退任

高山讓二助役が3月31日付で退任しました。



高山讓二氏

高山助役は昭和34年町田市に就職。企画課長、財政課長、企画部長、都市緑政部長などを歴任。平成4年2月から助役に就任、町田市発展のために尽力してきました。

歌の好きな中高年の人なら、この歌を知っているだろう。昭和三十一年、フランク永井が、彼独特のソフトな声で、実に丁寧に唄っている名曲である。私の好きな歌の一つである。今回は、この歌の作詞者、宮川哲夫と、この歌について書いてみようと思う。
 先ず、宮川哲夫について紹介し

日本音楽著作権協会(許諾第0302778・301)

鳥が飛び立つ 公園の
 銀杏は手品師 老いたヒエロ
 うすれ陽に ほほえみながら
 季節の歌を
 ララン ララン ララン
 唄っているよ
 貸してあげよか アコーディオン
 銀杏は手品師 老いたヒエロ

町田市長 寺田 和雄
 詞 宮川哲夫
 曲 吉田 正

宮川哲夫と福昌寺の大銀杏

(作曲・上原げんと、唄・近江俊郎) 次いで翌二十八年、『街のサウンドイッチマン』(作曲・吉田正唄・鶴田浩二)が初めて大ヒットして戦後の街々に歌が流れた。
 昭和二十七年四月、世田谷小に転任するも、身辺俄然多忙となり、二兎を追ってはいずれも本物にはなれないと決意、作詞家一本で生きようと、昭和二十九年三月をもって教職を辞し、ピクチャー専属作詞家となった。



福昌寺の大銀杏

「優しい先生だったよ」「ペーベンのような顔をしていた」「絵がとて上手だった」「男はどんなことでも勇気をもってやっ

よ。宮川哲夫は大正十一年、東京府大島波浮港村(現・大島町)の網元の長男として生まれた。少年時代から詩作が好きで抒情詩人をめざしていた。昭和十九年豊島師範学校卒業、大島差木地国民学校教諭として赴任。昭和二十五年五月、東京都忠生村忠生小学校(現・町田市忠生第一小学校)に転任、忠生村木曾の大和屋の離れに一家をあげて住んだ。この間、高橋掬太郎の詩誌にも参加し、昭和二十七年には、『哀愁の港町』

「ガード下の靴みがき」「好きだった」「夜霧の第二回道」「羽田発七時五〇分」「夜霧に消えたチャコ」「東京ドロンパ娘」「湖愁」「霧氷」など枚挙に尽かせないほどある。「霧氷」では橋幸夫が唄い、この年のレコード大賞となった。生来、酒を好み、また睡眠剤から離れられなかったが、仕事に没頭するには町田では不便と感じたのか、昭和三十三年、調布に移住する。町田には八年間住んだことになる。

宮川は住まいのある町田の木曾町辺りを、三女洋子の手を引いて散歩するのが好きだった。大和屋の近くに福昌寺という古い寺がある。境内に樹齢四百年余といわれる大銀杏が聳えている。町田市の銘木百選にも選ばれている木である。宮川はこの大銀杏を仰いで、『公園の手品師、老いたヒエロ...』と謳った。この歌は、クレハ・ホームソングとして朝日放送、ニッポン放送から放送された。町田が舞台となった名曲である。惜しくも宮川は昭和四十九年九月、五十二歳で死去。合掌。